

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	138

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光振興事務
事業目的	観光に関する各種情報をわかりやすく整備し、犬山への誘客増を図るとともに来訪後の利便性と満足度を高める。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市の観光情報ホームページについて、旬な情報提供を心がけ、見やすさ、わかりやすさに配慮しながら管理する。 ・公共駐車場の空き状況や犬山城の待ち時間表示等、観光客に必要な情報をリアルタイムで正確に提供する。 ・各種イベントなどにポスター等の広告物を提供し、観光振興を図る。 ●主な事業費 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市観光情報ホームページ管理業務委託料 660千円
事業の成果・効果	観光宣伝において、犬山観光情報ホームページは観光客に対し犬山の魅力を伝え、来訪意欲を喚起する点において極めて重要であり「観光の玄関口」という位置づけである。ホームページ内で様々な観光に関する情報を積極的に発信しており、旬な情報提供を心がけ、見やすさ、わかりやすさに配慮しながら実施するなど、観光振興における重要な役割を十分に全うしている。

II : 個別事業内訳

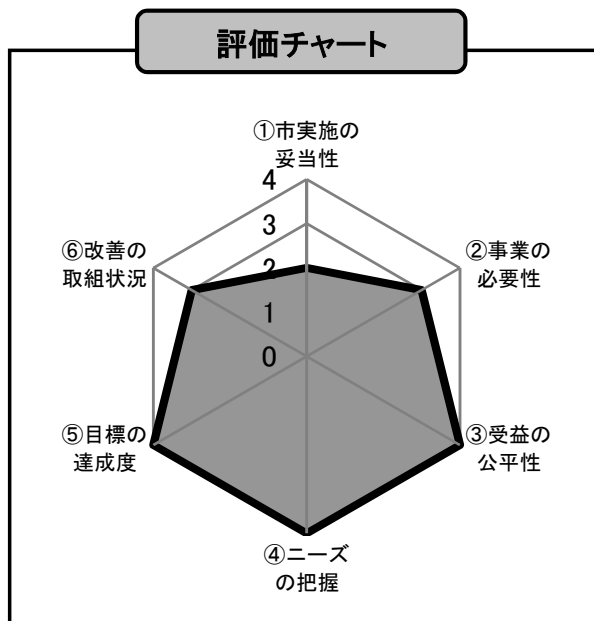
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
観光振興事務	781	0	781	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	781	0	781	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		813	781	991
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	813	781	991
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	2	市、観光協会、民間事業者で連携して実施しており、民間だけでは多面的で充実したサービスの提供は困難である。
②事業の必要性	3	犬山の観光振興を推進することで、市の認知度向上、域内消費額の増加による地域経済活性化、及び郷土愛醸成に繋がる重要な事業である。
③受益の公平性	4	事業の主たる対象は不特定多数の観光客であり、特定の個人・集団に偏ることなく、公平性は保たれている。また、ホームページ等で発信される内容は観光客だけでなく、すべての市民に対しても楽しく有益な情報提供になるよう努めている。
④ニーズの把握	4	城下町歩行者優先道路に関する地区住民との意見交換会や観光まちづくり会議を実施し、問題や課題の把握に努めている。
⑤目標の達成度	4	犬山観光の情報をホームページによりわかりやすく、随時発信することができ、当初の目的は達成した。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	犬山観光情報ホームページ内に体験型観光メニューの周知（掲載）や、駐車場シェアの情報を充実させることができた。
令和2年度に見直しを実施している事項	新型コロナウイルスの影響が大きいから、できることから実施していく。将来に繋がる取組みとして体験型観光メニューについて、より分かりやすく、関心を促すよう内容を検討する予定である。
今後見直しを検討する事項	ホームページの内容の精査を適宜進めることに注力していく。情報の鮮度や内容の深まり、充実を心がけることで、観光客にとっても、市民にとっても理解と関心、親和性を高める犬山の観光情報の玄関口となるよう、精度を高めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
犬山観光情報の内容の更なる充実と鮮度の維持向上。	ホームページの内容の精査を適宜進めることに注力していく。情報の鮮度や内容の深まり、充実を心がけることで、観光客にとっても、市民にとっても理解と関心、親和性を高める犬山の観光情報の玄関口となるよう、精度を高めていく。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	140

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光協会運営補助
事業目的	観光振興に必要な知見とノウハウを有する犬山市観光協会に対して運営費補助を実施することで、広域での観光振興や海外を含むメディアセールスを実現し、インバウンド需要への対応や国内誘客を推進する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>○犬山の観光推進に関する体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光振興のため、観光協会の人件費の一部を補助することで事務局体制を維持・強化し、新たな観光戦略への挑戦、広域圏からの観光誘客、招聘等、法人ならではのスピード感を持ち、機動力を活かした観光推進を実現する。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> 犬山市観光協会運営補助金 25,810千円
事業の成果・効果	犬山市観光協会は、法人化されたこともあり、従来よりも信頼性、柔軟性、旅行会社経験者の専門的知識等、組織力を活かした観光振興を実施している。市だけでは成し得ない宣伝・営業など幅広い事業展開を可能にしており、観光振興において十分な効果を発揮し、多くの観光誘客を実現している。犬山観光の核としての役割を十分に全うしている。

II : 個別事業内訳

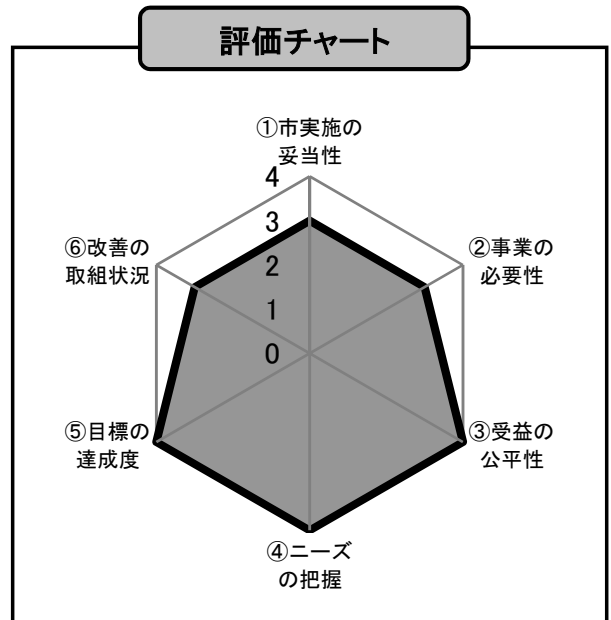
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
観光協会運営補助事業	25,810	0	25,810	100%	4	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	25,810	0	25,810	100%	4	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		25,840	25,810	26,414
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	25,840	25,810	26,414
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市、観光協会、民間事業者で連携して実施しており、市単独では実施不可能な誘客を実現。一方、民間だけでは多面的で充実したサービスの提供は困難である。
②事業の必要性	3	犬山の観光振興を推進することで、市の認知度向上、域内消費額の増加による地域経済活性化、及び郷土愛醸成に繋がる重要な事業である。
③受益の公平性	4	協会への補助を通じて不特定多数の観光客への利便性向上に資するものであり、事業効果としての公平性は保たれている。また、観光振興、観光まちづくりにより、すべての市民に対しても有益な取組みとなるよう努めている。
④ニーズの把握	4	城下町歩行者優先道路に関する地区住民との意見交換会や観光まちづくり会議を実施し、課題の把握と共有、改善のための提案・実践に努めている。
⑤目標の達成度	4	観光宣伝、自主事業等、法人化による信頼感、責任感、使命感を持って観光振興を推進している。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	観光振興に関し、犬山市観光協会は地域の観光の核としての役割を責任感を持って全うしており、補助額は前年どおりで妥当である。事業の内容・展開の方向性も前年と同様である。
令和2年度に見直しを実施している事項	補助額については予算規模等は前年と同様であるが、実施体制、事業の内容等については適正な精査を行い、適宜報告を受けることでより効果の高い補助事業となるよう努める予定である。取り分けコロナウイルス影響下において、将来の観光振興策の検討と準備を中心に活動を進める。
今後見直しを検討する事項	現時点においても地域の観光振興の核としての重責を果たしているところであるが、今後「観光まちづくり」を加速的に推進していく役割を担うよう求めていくことで、地域での存在感を増していくよう期待する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
観光が今まで以上に「地域づくり」に資するよう、取組み内容を精査・充実させていくこと、及び観光が産業として成長すること。	現時点においても地域の観光振興の核としての重責を果たしているが、今後は「観光」による地域活性化、地域の人財育成に繋がる取組みを進める。こうした「観光まちづくり」を加速的に推進していく役割を担うよう協会に求めていくことで、地域での存在感を増していくことを期待する。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	138

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光客誘致
事業目的	犬山市観光協会と連携したキャンペーン等の宣伝活動の実施、各種協議会との協働による広域での観光PR活動等を通じて犬山観光の魅力を高めるとともに、ブランドイメージを向上させ、全国から犬山への観光誘客を図る。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通渋滞緩和と観光客の安全を図るため、要所に警備員を配置する。 ○犬山観光キャンペーンの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋鉄道、犬山市観光協会と連携し、春夏秋の大規模な観光宣伝キャンペーンを実施する。 ○まつり・催事の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山祭保存会等と連携し、犬山祭を実施する。 ・各務原市等と連携し、日本ライン夏まつり納涼花火大会を実施する。 ○キャラバン等による観光宣伝の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋、首都圏、関西圏での集中キャラバンや鉄道駅を活用した観光宣伝を実施する。 ○愛知県大型観光キャンペーン等への参加（アフターDCでの取り組み） <ul style="list-style-type: none"> ・JRや旅行会社等に商品造成の売り込みを実施する。 ○地域連携、広域連携による観光宣伝の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・各種協議会や連携市町による観光宣伝、集客イベントを実施する。 ○国内、国外の観光客の受入に関する体制の構築とおもてなし事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・城下町を中心に交通誘導体制を整え円滑な観光客の誘導を図る。 ・訪日外国人の誘客強化の取組みと受け入れ体制を強化する。 ・滞在時間延長のためにおもてなし企画の拡充を図る。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山城下町交通誘導警備委託料 21,725千円 ・各協議会等負担金 63,486千円（飛騨木曾川、国宝城郭都市、日本ライン夏まつり、犬山集中大規模等） ・各団体補助金 1,350千円（犬山温泉特別宣伝事業、桃太郎あゆまつり催事）
事業の成果・効果	観光動向の指標とされている平成30年の犬山城登閣者数は61万人を超え、過去最高となった。改修工事が行われた平成31年度（令和元年度）も60万人を超え、誘客が促進されている。また城下町のまち歩きを楽しむ観光客も年々増加している。名古屋鉄道とタイアップして実施している犬山観光キャンペーンのコンテンツである串キングや着物企画等の実施や、観光客各個人がSNSを活用して情報を拡散されており、観光客の来訪増加に寄与している。

II : 個別事業内訳

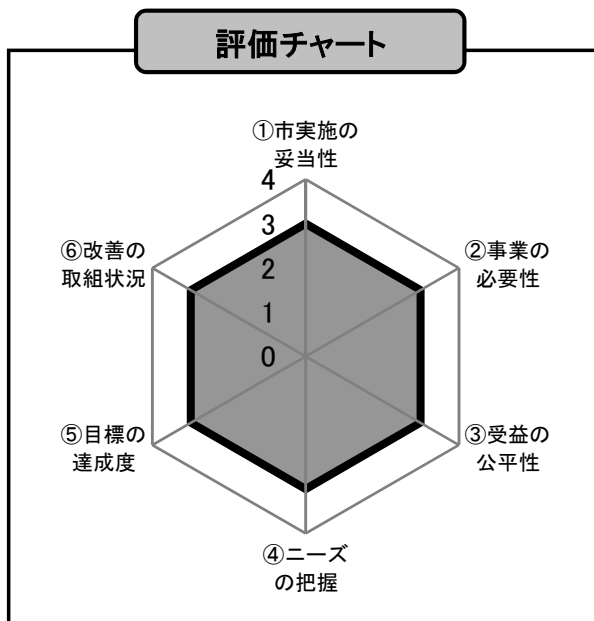
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
観光客誘致	89,962	33,942	56,020	62%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	89,962	33,942	56,020	62%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		86,087	89,962	88,031
財源内訳	国県支出金	0	2,947	1,184
	地方債	0	0	0
	その他	10,473	30,995	21,011
	一般財源	75,614	56,020	65,836
一般財源の割合		88%	62%	75%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市、一般社団法人犬山市観光協会、民間事業者で連携し実施している。
②事業の必要性	3	名古屋鉄道をはじめとする民間事業者との連携、犬山祭や日本ライン夏まつり等の催事の実施、営業活動であるキャラバンの実施は市の観光客誘致施策として必要性が高い。
③受益の公平性	3	犬山祭や日本ライン夏まつりの開催は、すべての市民に対して展開される意義深いサービスである。
④ニーズの把握	3	登閣者数、写真コンテスト応募点数、串キング決定戦投票数、城下町スタンプラリー応募者等は増加傾向にあり、ニーズ把握に努めている。
⑤目標の達成度	3	毎週末だけでなく、平日も城下町を訪れる観光客は増加している。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。また、常に改善を念頭に効果的な誘致活動を展開している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	観光誘客を目的として実施する各協議会では、執行にあたり事業内容の精査を随時行い、観光振興施策として充実したものとなるよう努めた。具体的には、国宝城郭都市観光協議会では、国宝五城が連携してスタンプラリーや大規模イベント出展など工夫を凝らした活動を行い、本市の認知度及びブランド力の向上に努めた。
令和2年度に見直しを実施している事項	新型コロナウイルス影響拡大という状況から、各協議会の事業は、内容の精査を行い変更・中止など実状に合わせた取組みを検討。将来の犬山観光振興に繋がる事業展開を図る。シェアリングエコノミーの推進を目的とした委託では、体験型観光メニューの拡充など、地域での観光の有用性が高まり、市民への還元も見据えた取組みを進めていく。
今後見直しを検討する事項	令和2年度は新型コロナウイルスの影響拡大を踏まえ、事業内容の変更、規模の縮小など、中止も含めて事業の検討を行う。一方で、収束後に犬山観光が再び回復できるよう、現時点で準備しておくべき事項をまとめ、検討・研究を進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
各事業の内容精査。各協議会の取組み充実検討。これまで以上に観光振興に資する取組みの検討と充実。犬山祭など特に重要な事業の持続可能な実施方法検討	新型コロナウイルスの影響拡大を契機に、観光振興の在り方や施策の方向性、考え方を再検討・再構築すべき状況にある。「シビックプライド」としての機能・効能や「まちづくり」ツールとしての「観光」の在り方を、事業者、住民、各団体と協働により研究・検討していく必要がある。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	138

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光案内所運営
事業目的	観光案内所の適正管理運営と案内機能を充実させることにより、観光客へのおもてなしと満足度を高める。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山駅及び城前の2カ所の観光案内所を通年で開設。来訪者に対して正確で丁寧な観光案内を実現する。 ・運営は観光振興に関する知見とノウハウを豊富に有する犬山市観光協会に対し委託業務として発注。インバウンドにも対応した安定的な管理体制を実現する。 ●主な事業費 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山観光案内所運営委託料 17,419千円（犬山駅、城前）
事業の成果・効果	観光客を迎える玄関口として犬山駅、及び城前の2カ所で観光案内所を設置。来訪客に対する案内や情報の提供、グッズの販売等を的確に実施することができた。運営は犬山市観光協会に委託しており、年間を通じて適切に管理することができた。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

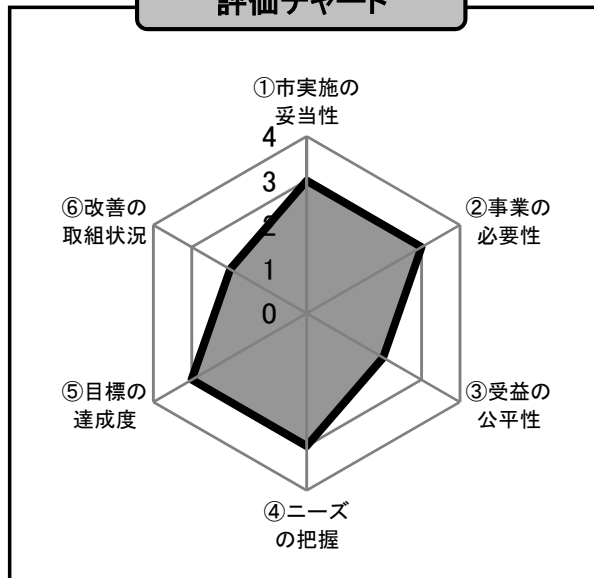
(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
観光案内所運営	17,419	17,419	0	0%	3	2	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	17,419	17,419	0	0%	3	2	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		16,382	17,419	22,533
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	16,382	17,419	22,533
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	観光客の旅の利便性確保のため主体的に設置・運営する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、観光振興は必要な事業である。その中で観光の玄関口となる案内所の運営は、円滑で快適な滞在を実現するため、必須である。
③受益の公平性	2	観光案内所で必要かつ的確な情報提供を行うことで、来訪者が円滑に移動し渋滞や混雑の緩和に資することになり、地域住民に対する生活への影響を小さくする。
④ニーズの把握	3	観光客数や観光需要、観光関係者等から意見を求める等、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	3	混乱はなく、年間を通じて適切な対応ができた。施設の運営も的確であった。
⑥改善の取組状況	2	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実現できている。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	城前観光案内所は犬山神社内に存置されており、利便性が高いとは言えない状況であった。令和元年度に恒久的な施設としてキャッスルパーキング内に観光案内所を新設することとした。また、JNTOのカテゴリーを取得し、案内機能を向上させた。
令和2年度に見直しを実施している事項	新型コロナウイルスの影響がある中ではあるが、今後、状況を見据えながら、案内所としての機能を充実させていく。とりわけ、施設内に設定している多目的スペースを積極的に利活用し、市民が観光という分野で活躍できる仕組みづくりを研究・検討していきたい。
今後見直しを検討する事項	城前観光案内所では、情報発信、情報提供、休憩機能など、多様な機能を有した観光交流拠点として充実させていきたい。特に、城下町から河畔、市域に点在するテーマパーク、その他自然資源へのアクセスが円滑にできるよう、バスやタクシーなども含めた移動拠点としての機能を充実させていきたい。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
多言語対応の充実、物販等も含めた稼ぐ機能の充実・展開。市民が活躍できる仕組みの構築。	インバウンド需要を取り込むため、長期的な視点では多言語対応も含めた受け入れ環境整備の充実を進めたい。また、物販等、稼ぐ手法の検討と実践に取り組んでいく。加えて、多目的スペースの利活用を促し、市民が活躍できる仕組み構築を検討する。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	138

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光施設管理
事業目的	観光トイレ、園地等広場、及び観光案内看板等の維持管理を適正に行うことで、観光地としてのイメージを高めるとともに、来訪者の満足度を向上させる。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各案内看板の適正な維持補修及び管理 <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した看板等を修繕し来訪者の安全と利便性を高める。 ・町名由来看板等観光案内看板を修繕し、犬山城下町の魅力を高める。 ○各観光トイレの定期的な清掃及び維持補修管理 <ul style="list-style-type: none"> ・観光トイレ等を通年で清掃等の維持管理を行うことで清潔さを保ち、観光客の利便性を高める。 ・破損等が生じたトイレの維持補修を実施する。 ○観光施設の除草選定等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設の除草選定作業を定期的に行い、施設の適切な維持管理を実現する。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公衆便所、観光施設等修繕料 1,893千円 ・ 観光地施設除草剪定業務委託料 1,594千円 ・ 観光施設の巡回清掃及び公衆便所の清掃管理業務委託料 9,886千円
事業の成果・効果	観光客へのおもてなしとして、観光施設の維持管理は重要である。トイレの不具合等への迅速な対応のほか、劣化が進んだ案内看板は順次修繕を実施するなど、適正な管理を実施してきた。城下町地区に整備した2か所の公共駐車場(キャッスルパーキング、内田観光駐車場)は、自動ゲート化により維持管理を適切に実施することができている。特に相互の駐車場間を円滑に誘導する体制を構築することで、渋滞緩和や待ち時間の短縮等の混雑緩和に資する維持管理が実現している。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

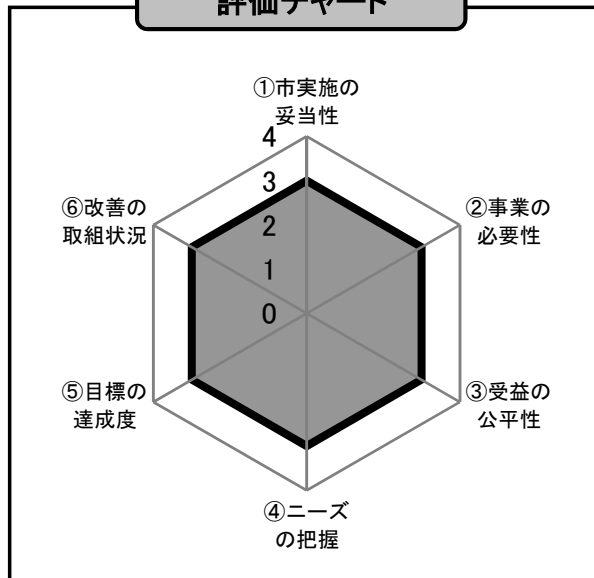
(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
観光施設管理	18,260	18,260	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	18,260	18,260	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		18,350	18,260	19,172
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	18,350	18,260	19,172
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	公共施設として観光客の旅の利便性確保のため主体的に実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、観光振興は必要な事業であり、施設の適正な維持管理など受け入れ環境の充実は必要である。
③受益の公平性	3	トイレをはじめとした公共施設は、観光客だけでなく、市民の利用も多く、誰もが利活用可能である。観光駐車場利用者には料金を徴収しており、受益者負担を適切に実現している。
④ニーズの把握	3	観光客数や観光需要、観光関係者等から意見を求めるなど、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	3	キャッスルパーキング、内田観光駐車場は、利用台数・収益ともに当初想定していた以上の実績を上げ、適切な運用を実現している。公衆便所等の観光施設も維持管理が支障なく出来ている。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	観光施設の除草選定については、実施回数や時期、及び実施の方法など、効果的かつ適切に行うことができるよう、受託者と協議の上、工夫して実施するように努めた。
令和2年度に見直しを実施している事項	観光案内看板のうち、老朽化したものは順次修繕・更新をしていく。犬山遊園駅及び犬山駅西口に設置している案内板については、新設ホテル建設など新たな動きに連動し、効果的な利活用を検討する。また、彩雲橋トイレについても令和3年度施工を目指し準備を進める。
今後見直しを検討する事項	看板や公衆トイレ等、老朽化が進む施設も多く、快適なおもてなし環境を構築するために、効率的効果的な更新・修繕を実施していく。そのために、優先順位と必要性を十分吟味し計画・実践を進めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
施設の計画的かつ効率的な更新。財源の安定的な確保、効果的な受け入れ環境整備の検討と設定。	適切な施設の維持管理を実現するためには、日常的な維持管理や点検等、効率的な運営を進める必要がある。老朽化に対する対応など、計画的に実施していく。また、管理者である職員の経験値を全体的に高めるとともに、ノウハウが共有できるような仕組みを構築していく。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	140

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	木曾川うかい事業費特別会計繰出金
事業目的	「木曾川うかい」を犬山の伝統文化として、保存伝承すると共に、犬山の観光資源として活用する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鵜舟操船に係る船頭の育成。 <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生推進交付金を活用した船頭育成事業を実施し、船頭不足の解消と鵜飼の保存に取り組む。 ○木曾川うかいに係る観光宣伝 <ul style="list-style-type: none"> ・各務原市との協力体制を強化し、各地での宣伝活動を実施する。 ○鵜飼に係る鵜の飼育管理 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥インフルエンザ対策など鵜の健全な管理を強化する。 ○鵜匠の育成（男性3名の正規職員、女性1名の観光協会職員） <ul style="list-style-type: none"> ・犬山の伝統漁法、木曾川の観光資源として継続していくため、取組み体制について継続して検討する。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曾川うかい事業費特別会計繰出金 59,147千円
事業の成果・効果	1300年続く「木曾川うかい」という伝統的漁法を犬山のかげがえのない伝統文化として今年度も引き続き実施し、保存継承することができた。但し、大雨などによる河川の増水などもあり、川止めの日も多くなり、鵜飼観覧者数は昨年よりも減少した。地方創生推進交付金を活用した船頭育成事業において、若手船頭育成の取組みを進めることができた。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

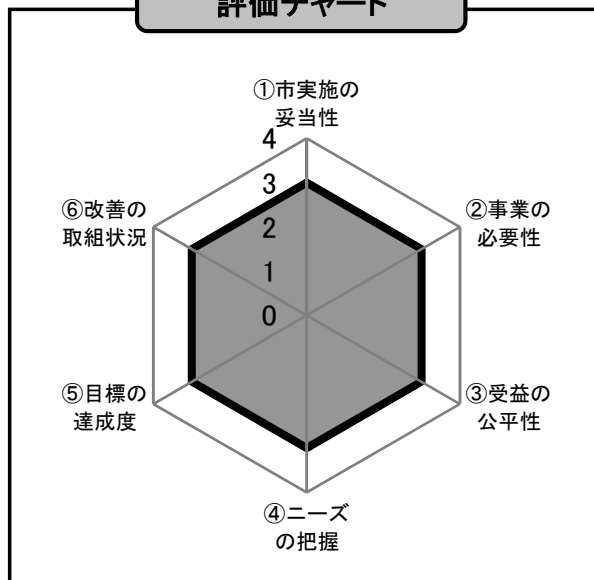
(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
木曾川うかい事業費特別会計繰出金	59,147	59,147	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	59,147	59,147	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		58,157	59,147	57,798
財源内訳	国県支出金	5,721	5,721	0
	地方債	0	0	0
	その他	52,436	53,426	57,798
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市指定文化財である貴重な犬山の伝統文化を保存継承していくためには、市営鵜飼の継続は必須である。
②事業の必要性	3	市指定文化財の貴重な犬山の伝統文化であり、保存継承していくべき事業である。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	市民うかい、親子うかい等を実施しており、その際、応募者も多いことから、鵜飼事業のニーズはあると認識している。
⑤目標の達成度	3	船頭育成事業においては、計画どおり進捗し一人前の船頭として新たに3名確保された。うかい観覧者数は大雨などによる川止め日が多くあったこと、名鉄犬山ホテルが閉鎖されたことから前年より減少。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	一人前の船頭を育成するための研修(訓練)については工夫しながら継続して実施し、3名が一人前として認められた。
令和2年度に見直しを実施している事項	新型コロナウイルス感染拡大、及び名鉄犬山ホテルの閉鎖(建替え)の影響を受け観覧船事業は大きく落ち込むと予想している。また、鵜飼そのものについても、実施の可否が検討されるという状況である。状況を鑑みながらではあるが、可能ならば船頭育成を少しでも継続・前進させていきたい。
今後見直しを検討する事項	新型肺炎の影響やホテルの閉鎖など、大きな打撃を受けている。鵜飼事業など川文化保存発展のため創意工夫が必要である。また船頭育成は喫緊の課題であり、「なかのり」「とものり」育成事業を今後も実施する必要がある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
鵜舟の船頭(なか乗り、とものり)の育成が必須。取り分け専門性の高い「とものり」を育てることが重要である。鵜飼の人気を高める工夫が必要。	船頭育成は国交付金が終了した後も、回数等の減少はありながらも継続して実施していくこととして、伝統漁法の保存継承に努めていく。川文化を発展させるための多様な主体による多様な取組みが必要である。官民連携した事業としていくことが肝要である。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	140

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光事業振興基金積立金
事業目的	将来の観光振興に係る経費の一部を積立し、一時的に多額の費用が必要となる事業が発生した場合に活用する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○観光事業振興基金への積立 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山温泉に係る入湯税の一部を基金の財源として積み立てる。 ○観光事業振興基金の取り崩し <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興に一時的に大きな費用が生じる場合において、基金の一部を取り崩して活用する。 ※平成31年度は城前観光案内所の整備に係る費用（工事）に活用する。 ※入湯税が確定した後に補正予算対応を実施。 ●主な事業費 <ul style="list-style-type: none"> ○観光事業振興基金積立金 7,410千円
事業の成果・効果	観光事業振興基金は、入湯税の一部を基金として積み立て観光施設の建設費用や観光施策に関する事業費に役立っている。令和元年度も計画的に実施し効果的な資金運用を実現することができた。

II : 個別事業内訳

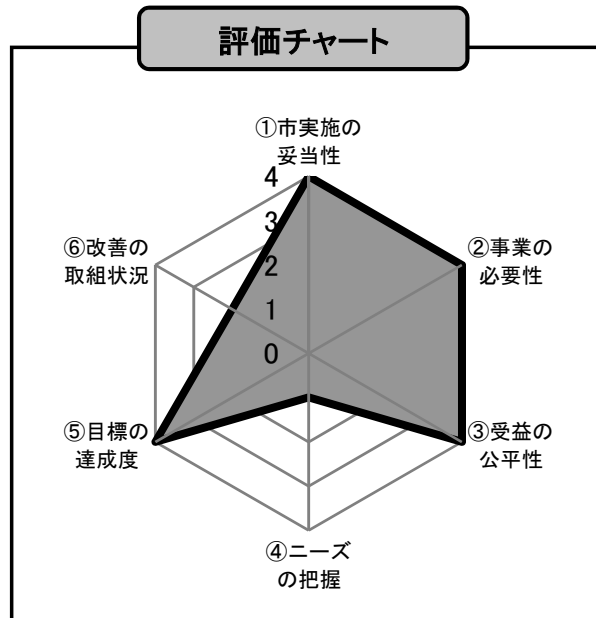
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
観光事業振興基金積立金	7,410	7,410	0	0%	3	2	2
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	7,410	7,410	0	0%	3	2	2

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		8,221	7,410	1
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	8,221	7,410	1
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	条例で規定しており、市が将来において必要な観光事業に活用可能な財源確保の手法として必要な事業である。
②事業の必要性	4	計画的に基金として積み立てておくことで、経済危機等の状況であっても、必要な設備等への投資が可能となり、継続的な観光振興のため、実施の必要がある。
③受益の公平性	4	基金の使途として、近年の事業として観光案内所やトイレ整備等に用いており、観光客だけでなく、広く市民に恩恵のある事業である。
④ニーズの把握	1	基金の使い道は市民及び観光客のニーズの高い事業に投じるものであるが、基金の積み立てそのものはニーズ把握をする性質のものではない。
⑤目標の達成度	4	基金運用、活用を効率的、効果的に行い、成果を得ている。
⑥改善の取組状況	2	特になし

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	前観光案内所を恒久的施設としてキャッスルパーキング東面、犬山神社西に新設した際に、財源のひとつとして基金を活用した。合わせて県補助金を活用し、基金の利用額を少しでも減らすことを心がけた。
令和2年度に見直しを実施している事項	名鉄犬山ホテルの閉鎖・建替えに新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、入湯税減額は非常に大きいものと予測している。基金の利用は慎重に考える必要がある。
今後見直しを検討する事項	令和3年度に新たに開設される2つの宿泊施設と新型肺炎収束により、基金の積立額の増額を図りたい。また、既存宿泊施設の稼働率を高める工夫を凝らすことも検討したい。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
継続的な積立と安全で効率的な運用を図る必要があるが、令和元年8月に名鉄犬山ホテルが閉鎖され入湯税減収の見込み。財源確保が課題となっている。	名鉄犬山ホテル閉鎖・建替えにより入湯税は大きく減少する見込みであるのに加え、新型肺炎による衝撃は予測できない状況である。R3年度以降に新たに2つの宿泊施設が加わることで、及び既存宿泊施設の稼働率を少しでも上げることで、今後の極めて厳しい状況を改善し税収が増加するよう取組みを進める。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	138

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光案内所整備
事業目的	観光案内所を新たに設置し、犬山城下町への観光客に対し利便性を高める。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・来訪者に利便性と満足度を高められるよう、恒久的な観光案内所設置工事を実施。令和2年3月から供用開始 ※整備費用は観光事業振興基金を活用するとともに、愛知県が造成する観光施設費整備補助金を活用（8,262千円） ●主な事業費 <ul style="list-style-type: none"> ・城前観光案内所工事監理委託料 1,540千円 ・城前観光案内所設置工事請負費 27,129千円 ・城前観光案内所備品購入費 1,040千円
事業の成果・効果	観光客へのおもてなしとして、観光施設の適切な維持管理は必須である。特に来訪者を円滑に案内・誘導する観光案内所は観光の玄関口として、利便性を高めることは重要である。平成30年度に設計を完了した犬山城前観光案内所は令和元年度内に予定通り建設工事を終え、令和2年3月1日にオープンすることが出来た。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

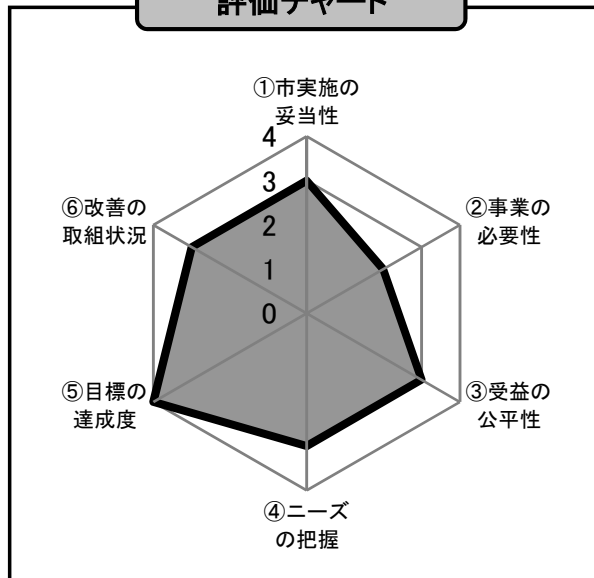
(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
観光案内所整備	29,964	29,964	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	29,964	29,964	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		2,786	29,964	-
財源内訳	国県支出金	0	8,262	-
	地方債	0	0	-
	その他	2,786	21,702	-
	一般財源	0	0	-
一般財源の割合		0%	0%	-

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	公共施設として観光客の旅の利便性確保のため主体的に実施する必要がある。
②事業の必要性	2	観光都市犬山として、観光振興は必要な事業である。
③受益の公平性	3	案内所内に新たに設置する多目的スペースは観光客だけでなく、市民が観光分野で活躍していただけるような利活用を想定している。
④ニーズの把握	3	案内所訪問者数、入込観光客数や観光需要、観光関係者等から意見を求めるなど、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	4	キャッスルパーキング内に予定通り観光案内所の設置を完了。供用を開始することができた。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	財源として観光事業振興基金を充てたほか、愛知県観光施設費等補助金も活用し一般財源の支出無く建築工事を終えることができた。
令和2年度に見直しを実施している事項	新型コロナウイルスの影響により、観光案内所の運営も縮小、休止など難しい状況にある。収束後は市民及び観光客にとって、使い勝手の良い案内所として、観光案内の核として利便性と満足度が高まるような利活用を促したい。
今後見直しを検討する事項	案内機能だけでなく、稼ぐ機能を大きく伸ばしたい。運営に係る経費を少しでも捻出できるよう、工夫を凝らした事業展開を心がける。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
市民にとっても利便性の高い案内所となること、稼ぐ機能を高めること、城下町だけでなく、周辺観光地への円滑な誘導を図ること。	市民にとっても利便性の高い案内所となるよう、多目的スペースの利活用促進を図る。稼ぐ機能を高めるため、自動販売機設置をはじめ、工夫を凝らす。バスやタクシーの発着場、遊覧船の案内場として位置づけ、周辺観光地への円滑な誘導を図る。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	138

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光駐車場管理
事業目的	キャッスルパーキングと内田観光駐車場の自動ゲート化により一体的な管理運営を行うことで、城下町エリアに訪れる観光車両を効率的に受け入れるとともに、利用料による自主財源の確保を図る。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>○キャッスルパーキングと内田観光駐車場を自動ゲート化し一体的な管理運営を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内田観光駐車場及びキャッスルパーキングを効果的に運用する。 ・混雑時には多目的広場を利活用し利用料を得て自主財源確保に努める。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷製本費（駐車券） 1,645千円 ・観光駐車場管理業務委託料 22,627千円
事業の成果・効果	交通渋滞緩和の為、H29年度末に内田観光駐車場を整備し運用を開始。H30年度にキャッスルパーキングの自動ゲート化が完了。城下町へのアクセスが容易な場所に公共駐車場を整備し、円滑な駐車場管理と車両の誘導を実現した。令和元年度は2施設の運営を安定的に行うことができた。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

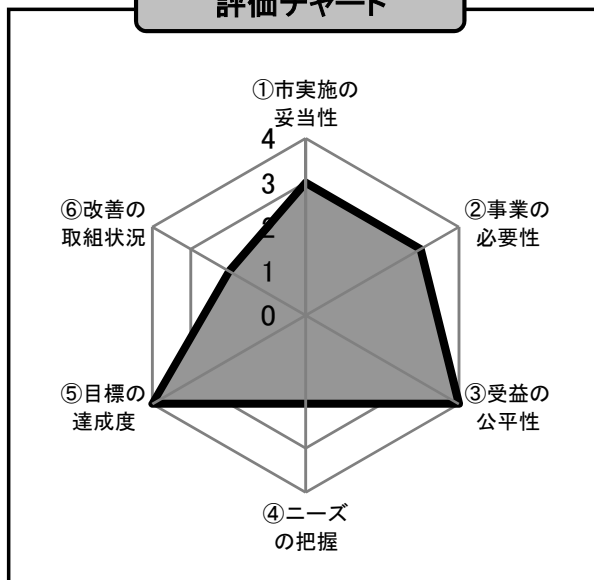
(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
観光駐車場管理	25,216	25,216	0	0%	2	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	25,216	25,216	0	0%	2	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		49,324	25,216	27,328
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	49,324	25,216	27,328
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	受け入れ環境を整備し、観光客の旅の利便性確保のため、主体的に実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、受け入れ環境の整備は必要な事業である。また、渋滞緩和や混雑改善のため、地域住民への生活支障を少しでも軽減させるため、施設の整備は必須である。
③受益の公平性	4	渋滞緩和等の交通状況の改善を図り、周辺住民への影響を軽減させることになり、必要な事業である。また駐車場利用者には料金徴収し、受益者負担を適切に実現している。
④ニーズの把握	2	観光客数や観光需要、観光関係者等から意見を求めるなど、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	4	2つの観光駐車場は適正に運用できている。
⑥改善の取組状況	2	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	大きく見直し・改善した点はないが、城下町へのわかりやすい案内看板を場内に設置、受託者への指導の徹底などにより、おもてなし力の向上に努めることができた。
令和2年度に見直しを実施している事項	新型コロナウイルスの影響により、駐車場の運営を一時休止するなど、非常に厳しい状況となっている。収束後、多くのお客様が訪れていたいただき、適切に案内、誘導できるよう、準備を進める。また、駐車場間円滑な誘導方法をさらに改善できるよう、運営方法の工夫も継続して実施する。
今後見直しを検討する事項	観光ハイシーズンとなるGWや紅葉時期など、駐車場が満車となり車列が道路に溢れる状況がある。過大な事業費はかけずに、ピーク時の的確な対応が実現できるよう、検討していきたい。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
駐車場管理の更なる効率的な運用方法。余剰スペースの利活用。内田駐車場多目的広場利用時の効率的な誘導。2施設間の効果的な誘導方法確立	駐車場管理は安定的な収益と適切な運営がある程度実現できている。しかしながら、ピーク時の適切な対応方法など、改善すべき点も多いため、受託者等と十分な協議を行い、更なる改善を図る。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

会計名	決算書(P)
木曽川うかい事業費特別会計	431

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	木曽川うかい事業
事業目的	「木曽川うかい」を犬山の伝統文化として保存継承するとともに、犬山の観光資源として活用する。本市が進める河川空間活性化に寄与する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鵜舟操船に係る船頭の育成。 <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生推進交付金を活用した船頭育成事業を実施し、船頭不足の解消と鵜飼の保存に取り組む。 ○木曽川うかいに係る観光宣伝 <ul style="list-style-type: none"> ・各務原市との協力体制を強化し、各地での宣伝活動を実施する。 ○鵜飼に係る鵜の飼育管理 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥インフルエンザ対策など鵜の健全な管理を強化する。 ○鵜匠の育成（男性3名の正規職員、女性1名の観光協会職員） <ul style="list-style-type: none"> ・犬山の伝統漁法、木曽川の観光資源として継続していくため、取組み体制について継続して検討する。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消耗品費 11,444千円 ・飼料費 2,712千円 ・鵜飼保存・活性化事業委託料 6,777千円 ・鵜舟・屋形船出船業務委託料 3,543千円 ・鵜飼保存・活性化（交付金関係）委託料 11,484千円 ・鵜飼船着場改良工事請負費 875千円
事業の成果・効果	1300年続く「木曽川うかい」という伝統的漁法を犬山のかげがえのない伝統文化として今年度も引き続き実施し、保存継承することができた。但し、大雨などによる河川の増水などもあり、川止めの日も多くなり、鵜飼観覧者数は昨年よりも減少した。地方創生推進交付金を活用した船頭育成事業において、若手船頭育成の取組みを進めることができた。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

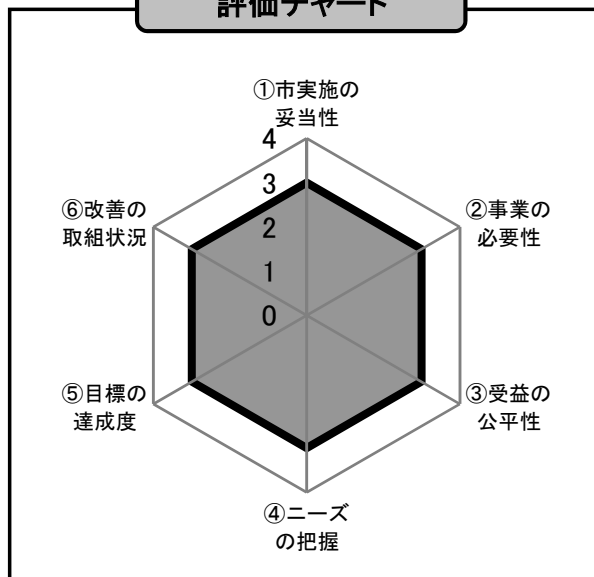
(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
一般管理	31,291	31,291	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	31,291	31,291	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		31,734	31,291	31,542
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	31,734	31,291	31,542
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市指定文化財である貴重な犬山の伝統文化を保存継承していくためには、市営鵜飼の継続は必須である。
②事業の必要性	3	市指定文化財の貴重な犬山の伝統文化であり、保存継承していくべき事業である。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	市民うかい、親子うかい等を実施しており、その際、応募者も多いことから、鵜飼事業のニーズはあると認識している。
⑤目標の達成度	3	船頭育成事業においては、計画どおり進捗し一人前の船頭として新たに3名確保された。うかい観覧者数は大雨などによる川止め日が多くあったこと、名鉄犬山ホテルが閉鎖されたことから前年より減少。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	一人前の船頭を育成するための研修(訓練)については工夫しながら継続して実施し、3名が一人前として認められた。
令和2年度に見直しを実施している事項	新型コロナウイルス感染拡大、及び名鉄犬山ホテルの閉鎖(建替え)の影響を受け観覧船事業は大きく落ち込むと予想している。また、鵜飼そのものについても、実施の可否が検討されるという状況である。状況を鑑みながらではあるが、可能ならば船頭育成を少しでも継続・前進させていきたい。
今後見直しを検討する事項	新型肺炎の影響やホテルの閉鎖など、大きな打撃を受けている。鵜飼事業など川文化保存発展のため創意工夫が必要である。また船頭育成は喫緊の課題であり、「なかのり」「とものり」育成事業を今後も実施する必要がある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
鵜舟の船頭(なか乗り、とものり)の育成が必須。取り分け専門性の高い「とものり」を育てることが重要である。鵜飼の人気を高める工夫が必要。	船頭育成は国交付金が終了した後も、回数等の減少はありながらも継続して実施していくこととして、伝統漁法の保存継承に努めていく。川文化を発展させるための多様な主体による多様な取組みが必要である。官民連携した事業としていくことが肝要である。